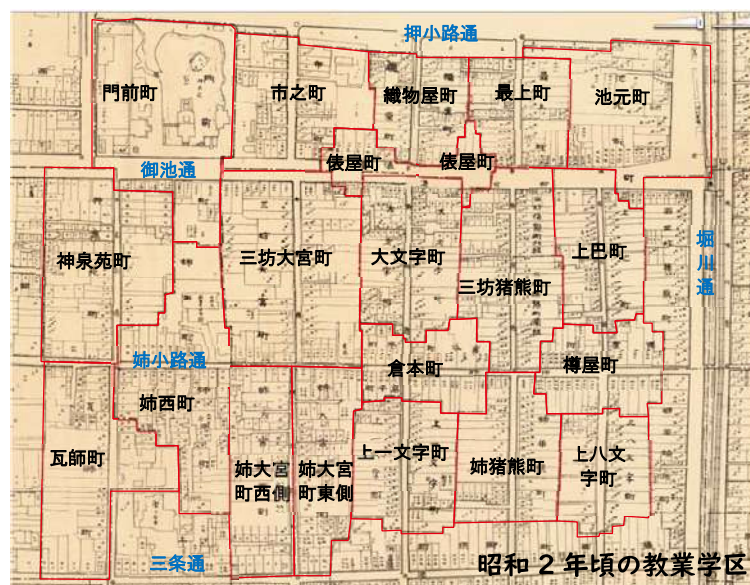


教業学区防災まちづくり計画

『互いの助け合い』の心が広がり、顔の見える安心・安全な教業のまち
ー町内会を基本とした防災まちづくりー



平安京オーバーレイマップ



昭和2年頃の教業学区



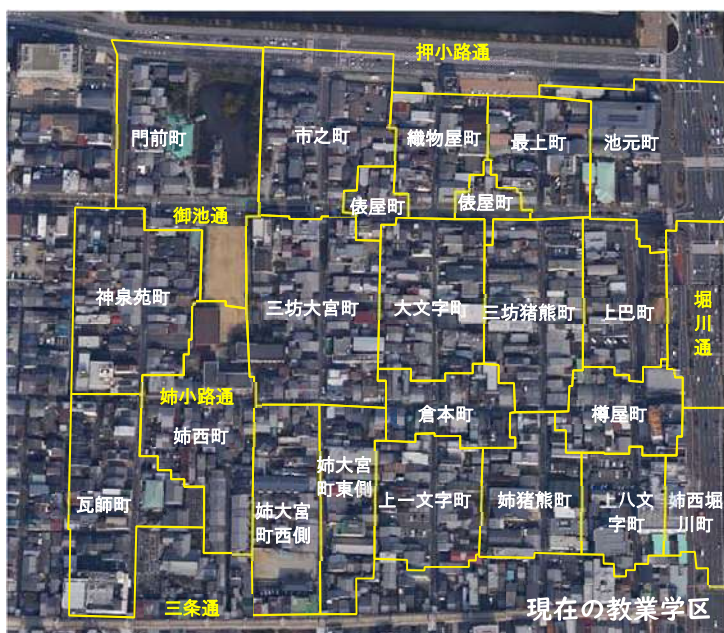
二条城



神泉苑



元教業小



現在の教業学区

令和3年3月

教業学区自主防災会

【目次】

教業学区の概要	学区概要 1～7
教業学区防災まちづくり計画	学区計画 1～8
町内会別防災まちづくり計画	21 町内会

教業学区防災まちづくり計画

『互いの助け合い』の心が広がり、
顔の見える安心・安全な教業のまち
—町内会を基本とした防災まちづくり—

みんなで守り、支えあう
町内会・学区

自ら守る
個人・家庭

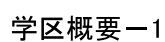
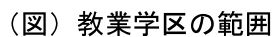
【町内会】

三坊大宮町
大文字町
倉本町
上一文字町
三坊猪熊町
神泉苑町
瓦師町
姉西町
姉大宮町西側
姉大宮町東側
上巴町
樽屋町
姉西堀川町
姉猪熊町
上八文字町
最上町
俵屋町
織物屋町
市之町
門前町
池元町



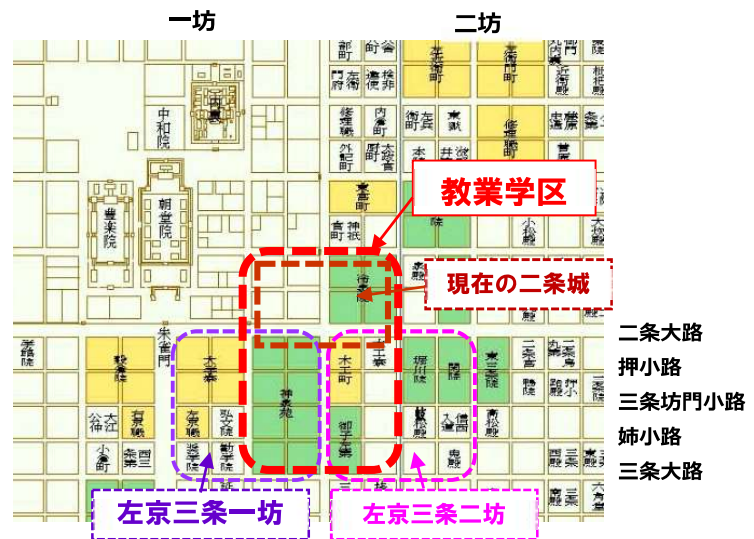
(1) 教業学区の位置

学区内に中京区役所が立地し、地下鉄東西線の二条城駅が位置し、利便性も高く、二条城や神泉苑などの歴史的な施設も多く立地し、中京区の中でも歴史的に行政の中心地として発展してきた学区です。



(2) 教業学区の歴史 - 平安建都から現代まで『昔のまま』のまちの骨格を受け継いでいます

平安建都時に「**教業坊**」が設置され、
教業学区は左京三条(左京教業)一坊、
二坊に跨り、「**教業**」の名が誕生してい
た歴史的エリアです。



天正 4 (1586 年) に秀吉が聚楽第を築いた際、町
とともに「**岩上**」「**猪熊**」「**黒門**」「**神泉苑**」「**姉小路**」
「**御池**」等の街路を整備し、その時より現在の地形
が形成されました。

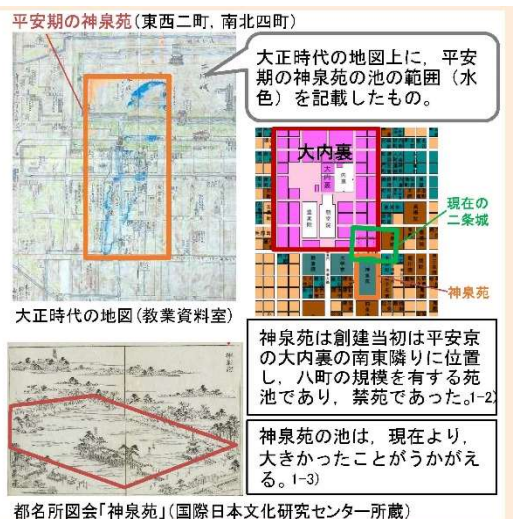
大正時代には堀川通、御池通と押小路通に市電が
通っており、昭和 40 年頃に廃線となりました。



(注) 三条坊門小路は江戸
時代以降「御池通」の名称



神泉苑は延暦 13 (794 年) に平安京造営の際に設
けた禁苑で、現在は真言宗の寺院で国の史跡です。



教業小学校は上京第二十三番組小学校と
して明治 2 年に開校。校名は**平安京の坊名「教
業坊」**に由来すると言われています。



(大正 7 年頃)



(現在)

2 教業学区の防災上の現状と課題

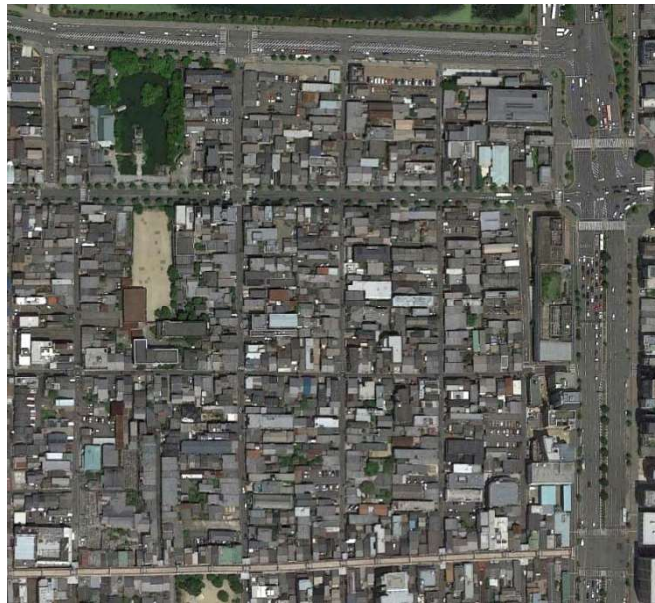
(1) 建物（木造建築物）の変遷 - 現在も木造建築物の比率が高い

戦後（1945 年）の航空写真を見ると堀川通の疎開跡と木造建築物が大半を占めていることがわかります。現在の航空写真及び道路からの建物調査でも木造建築物が多く立地していることが確認されます。

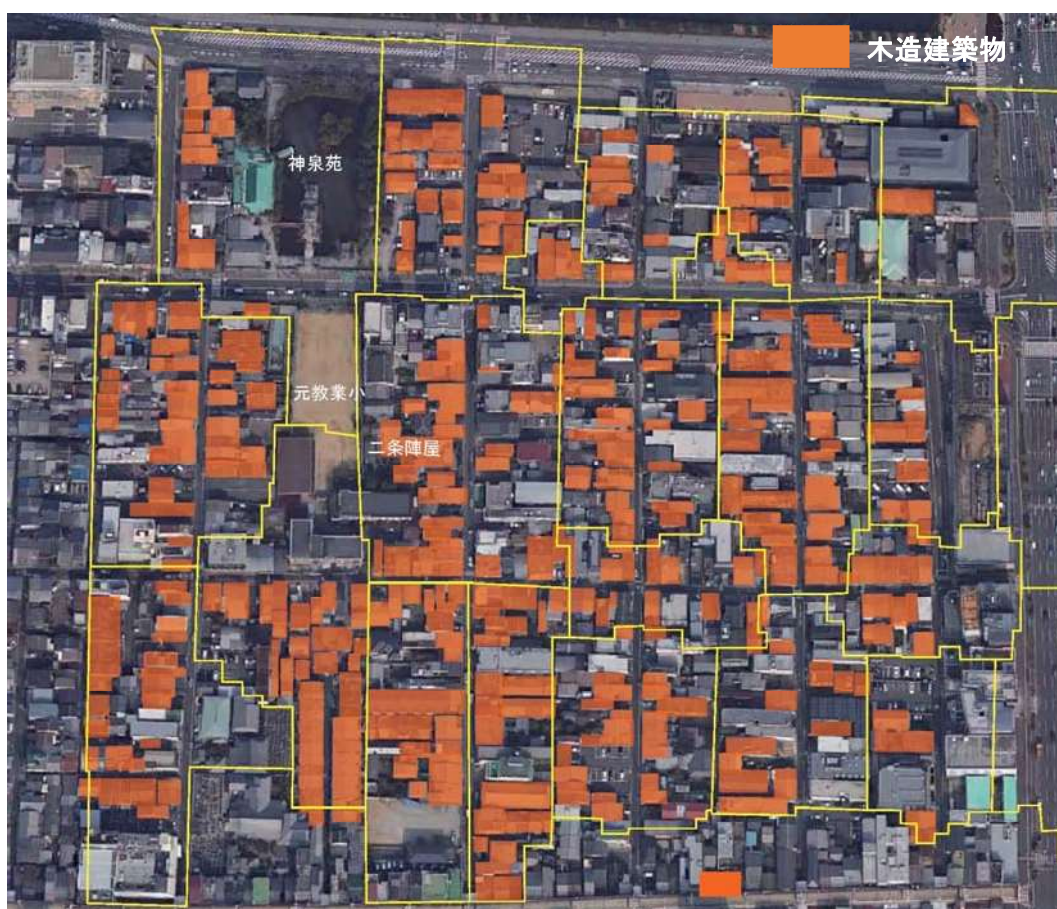
(写真)1945(昭和 20)年



(写真)現在



(図)木造建築物の立地状況(令和 2 年 4 月現在:目視調査)



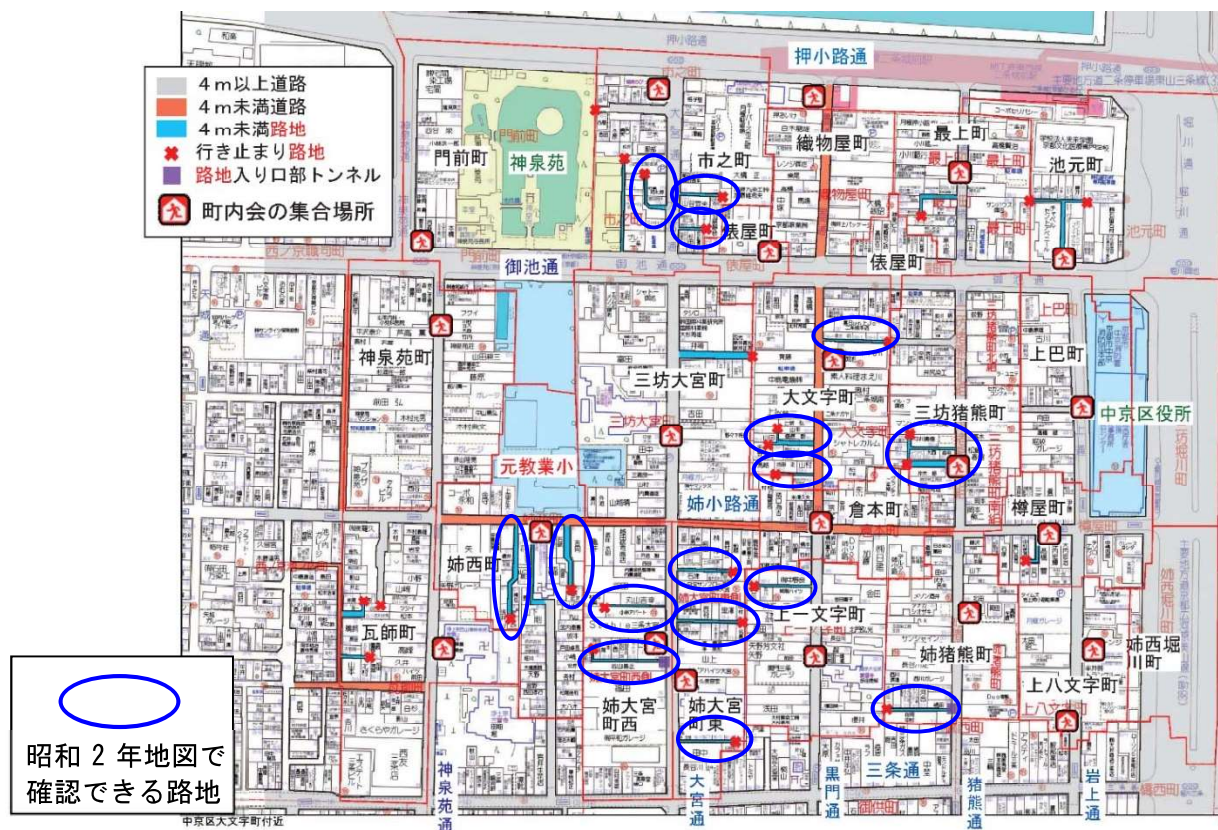
(2) 路地の変遷 - 町の道路骨格は昔のままで、多くの行き止まり路地が昔のままです

現在確認できる路地を昭和2年の地図で検証すると、その多くが昔のままであることがわかります。また、各町内会の骨格となる通りの幅員も多くがほぼ昭和初期のままであることが確認できます。

(図)昭和2年の学区図



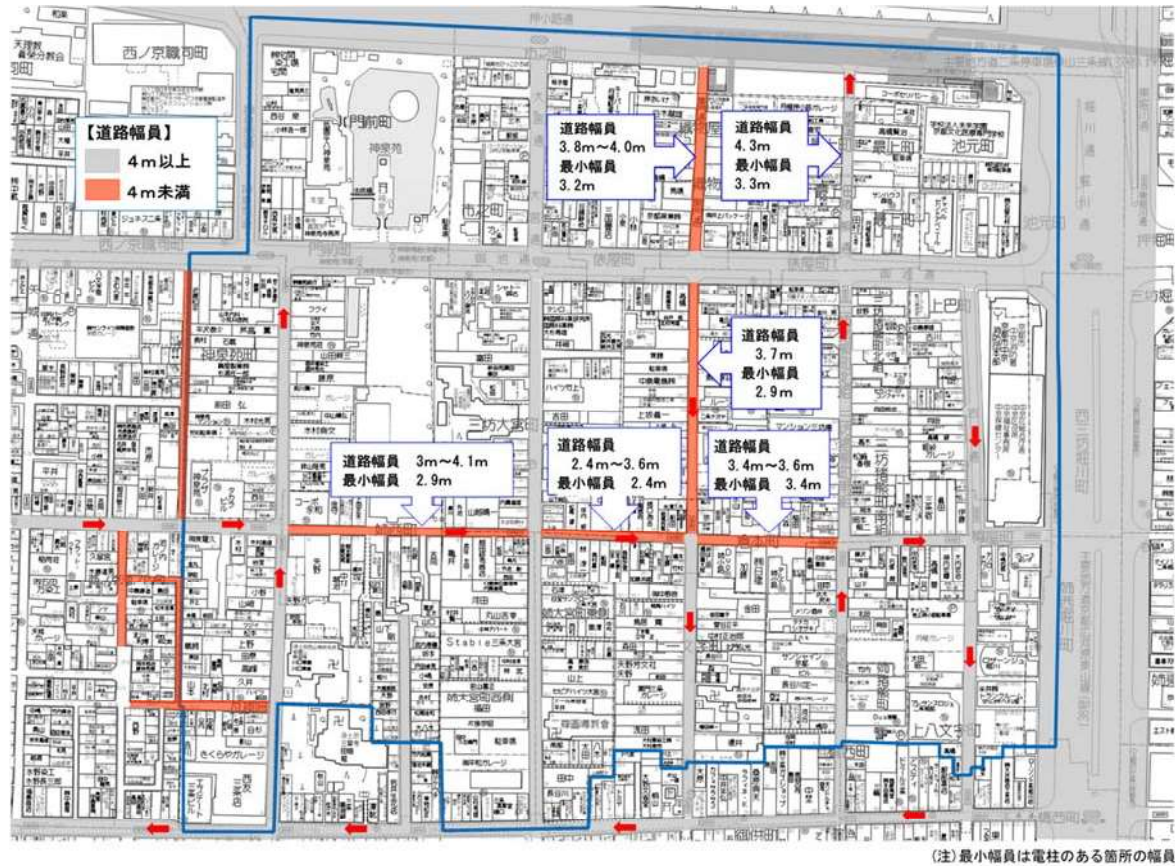
(図)現在確認できる行き止まり路地の昭和2年の地図との比較



(3) 道路幅員 — 各町内会の骨格道路で幅員4m未満の箇所が多く見られます

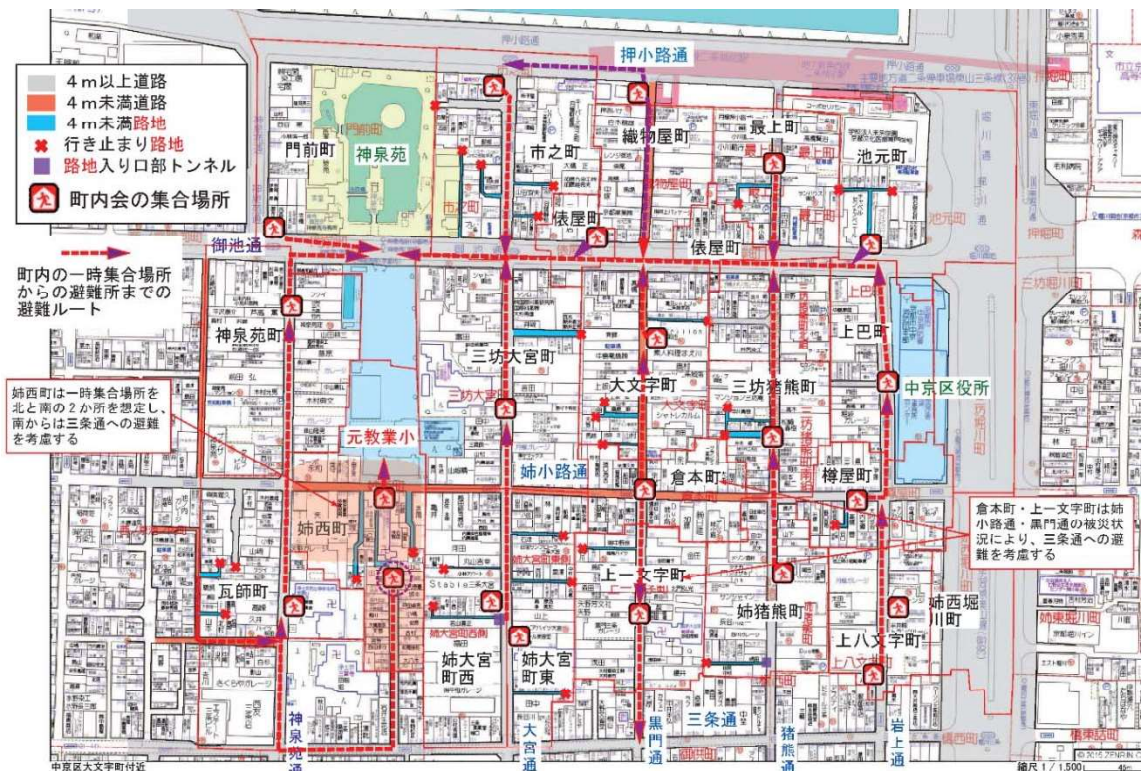
各町内会の骨格となる通りの幅員を見ると、姉小路通と黒門通で、4m未満の箇所が多く見られます。この通りに面する町内会では地震等の際には沿道の建物の被災状況次第では避難困難が予想され、複数の避難ルートの想定が望めます。

(図) 幅員4m未満の道路箇所図



(注) 最小幅員は電柱のある箇所の幅員

(図) 各町内会の一時集合場所から避難所への避難ルート



（４）避難所と避難ルート ― 二次避難所が設定され、避難ルートの検証が必要です

教業学区の避難所は元教業小学校が指定されていますが、建物の耐震性や避難収容人員が少ないことなどから、令和２年４月に二条駅に隣接する「立命館朱雀キャンパス」が二次避難所として指定されました。今後、元教業小の避難所としての安全性の確認とともに、元教業小が使用できない場合に、二次避難所までの避難の安全性確保についての検討が必要となっています。

（図）教業学区の避難所 - 元教業小と二次避難所の立命館朱雀キャンパス



（図）周辺学区の避難所の位置と収容人員



〇学区ごとの避難所一覧

学区	避難所	収容人員
教業学区	元教業小	175
	立命館朱雀キャンパス	113
朱一学区	朱雀第一小学校	822
	中京中学校	563
朱六学区	朱雀第六小学校	209
	朱雀高校	431
	西ノ京中学校	450
城巽学区	京都堀川音楽学校	268
乾学区	洛中小学校	192

3 教業学区の防災まちづくり課題の総括

教業学区のまちは平安京にさかのぼることができる歴史的エリアであり、秀吉による町の改造や家康が築城した二条城を現代に引き継ぐ歴史が息づき、持続するまちです。

近年の建物の構造の変化や人口、世帯の推移でまちは徐々に変化していますが、歴史によって培われてきたまちの基本構造は昔のままであり、その歴史を受け継ぐまちとして防災課題が明確に見えてきます。

これらの課題の総括を踏まえ、「歴史あるまち」を基本に、安心安全なまちを目指して、自助、共助を基本とした防災まちづくりの取組が今求められています。

■教業学区防災まちづくり課題の総括

- 秀吉による町改造以降、街区および通りはほぼ近世以降のまちのままです。
- 町内会のエリアも近世以降に確認できる地図とほとんど変化していません。
- 昭和初期の地図で確認できる多くの路地が今も確認できます。
- 行き止まり路地も多く見られ、複数の避難経路の確保の検討が急務です。
- 木造建築物の割合が高く、大地震や大火災への備えが必要です。
- 町内会の骨格の通りは幅員も狭く、災害時の避難ルートへの安全性の検討が必要です。
- 町内会加入率が低く、町に住む人全体での「助け合い」の見直しが必要です。

